

多機能トイレとは別の選択肢 気軽に使える「男女共用広めトイレ」

誰でも利用できるトイレとして、トランスジェンダーのニーズも高い「多機能トイレ」。
しかし、利用者が集中し、車椅子使用者が利用できないという問題も生じている昨今、
車椅子使用者や子ども連れに気兼ねして、利用を躊躇してしまう人も少なくないようです。

調査データ：性的マイノリティのトイレ問題に関するWEB調査 2015 (LIXIL、虹色ダイバーシティ)

だれでもトイレや多機能トイレの利用には気が引ける…

トイレ利用時の困りごとを聞いたところ、トランスジェンダーの約6割が「だれでもトイレ利用時に気まずい」と回答。また、理想のトイレについても、車椅子使用者や子ども連れの方が利用する多機能トイレとは別に「男女共用で利用できるトイレ」の設置を求める声が多く挙がりました。

【職場や学校のトイレ利用で困る・ストレスを感じる理由】

だれでもトイレ
利用時に気まずい **58%**
(n=268)

障害者の方が来られたら申し訳ないと引け目を感じる。(MTF 30代)

身体に不自由があるわけではないので、使い難いです。(FTX 20代)

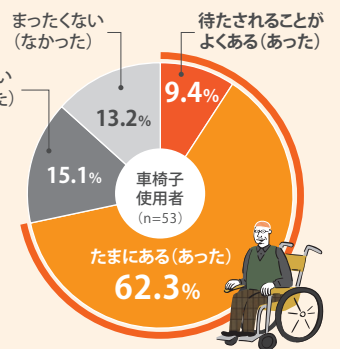
多機能トイレではない、男女共用のトイレがあってほしい。(FTM 10代)

もっと気軽に入れる「だれでもトイレ」があつたらいいな。(FTX 20代)

【多機能トイレの利用集中問題】

多機能トイレが
使用中のため、
待たされた経験の
ある車椅子使用者は

約**72%**



※出典：「共生社会におけるトイレの環境整備に関する調査研究」(国土交通省/2018年度)

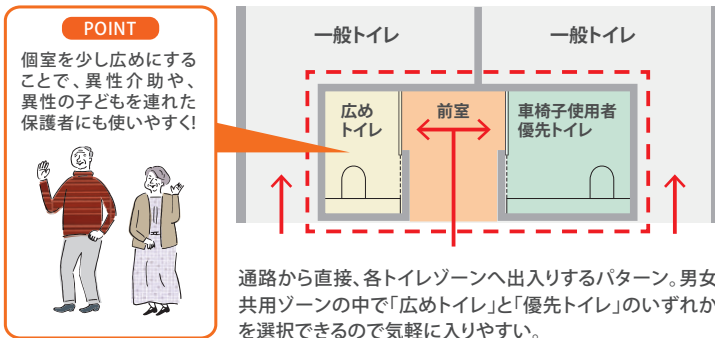
SOLUTION

多機能トイレや車椅子使用者用トイレとは別に、
「男女共用広めトイレ」を設置

男女共用広めトイレ = 利用者を限定せず、誰もが気軽に落ち着いて利用できるトイレ

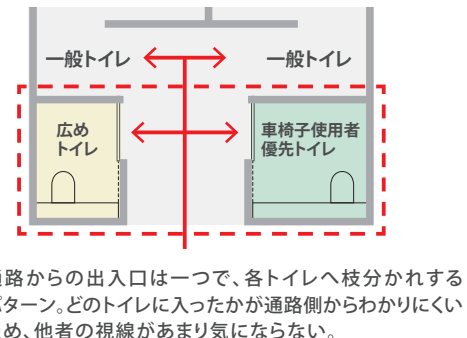


■レイアウト例-1



■レイアウト例-2

男女共用ゾーン



男女別トイレに求められる トランスジェンダーへの配慮とは?

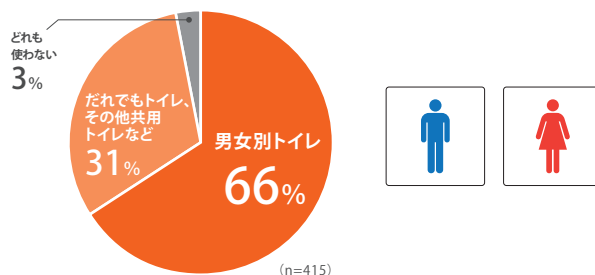
男女共用トイレの充実を望む声がある一方で、性自認に沿ったトイレの利用を希望するトランスジェンダーも少なくありません。また、現実として、男女別トイレを利用せざるをえない人も数多くいます。その実情を踏まえて、男女別トイレに求められる配慮についてご紹介します。

調査データ：性的マイノリティのトイレ問題に関するWEB調査 2015 (LIXIL、虹色ダイバーシティ)

トランスジェンダーの約7割が男女別トイレを利用

外出先でどのトイレを利用しているかを聞いたところ、**66%**が「**男女別トイレ**」を利用していました。性自認に沿ったトイレを利用しているか、出生時に付けられた性別に沿ったトイレを利用しているかは人それぞれです。ゆえに困りごとさまざまですが、中には**プランや設備を工夫**することで解決できることもありそうです。

Q. 実際に、外出先で利用しているトイレは?



VOICE 男女別トイレ利用時の困りごと

01 個室が足りない

小便器は使えないので、個室が空いていないと困る。(FTM 10代)

女性トイレの行列で待つ間、自分は女だと意識させられ辛い。(FTX 30代)

02 視線や気配が気になる

小便器で用を足しているとき、隣の人の視線が気になる。(MTX 30代)

上から覗かれないよう、個室が天井まで囲まれていると安心。(FTM 30代)

03 排尿音が男女で異なる

男性トイレの個室で用を足すと、音漏れしないか気が気でない。(FTM 20代)

誰もいなくなった瞬間など、タイミングを調整している。(FTM 20代)

04 男性用トイレに汚物入れがない*

生理のときに、汚物入れがなくて困った。(FTM30代)

生理用品を捨てるダストボックスがない。(FTX20代)

*出生時女性のトランスジェンダーの中には、性別違和の緩和のために男性ホルモンの投与を受ける人もいます。投与により生理が停止しますが、中断や体調により再開することがあります。

SOLUTION トランスジェンダーへの配慮ポイント例

トランスジェンダーの困りごとを解決することで、誰もが安心して快適に利用できるトイレになります。

POINT 01

個室の数を増やす・見直す

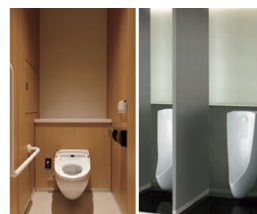
近年は、小用で個室を利用する男性も増えてきています。混雑解消のために、限られたスペースの中で、個室と小便器の比率を見直すのも一つの方法。また、女性用トイレについても個室の増設は混雑緩和につながります。



POINT 02

プライバシーの確保

プライバシー感を高めることで、誰もが安心して使えるようになります。個室の仕切りを床から天井まで伸ばすと、グッと安心感が高まり防犯性もアップ。男性用トイレの小便器に仕切りを設置すれば、隣の人も気になりません。



POINT 03

男性用トイレにも擬音装置を

トランスジェンダーでない人でも、自分の音あるいは隣の人の音は気になるもの。擬音装置を設置することで、音のプライバシー確保にもつながります。座ると自動で鳴るオート擬音がおすすです。



POINT 04

男性用トイレにも サンタリーボックスを

男性用トイレを利用するFTM・FTXの方の生理時への配慮。尿パッドなどを使用している男性にもお使いいただけます。

*清掃・メンテナンス業者さまへのご説明等が必要です。



性自認^{*}に沿った男女別トイレの利用 求められるシスジェンダーの意識改革

トランスジェンダーの中には、性自認に沿ったトイレを利用したくても、できない人もいます。
その理由はさまざまですが、周りにいるシスジェンダーの意識が大きく影響している可能性もあります。

*性自認：自分の性別をどう認識しているかの概念。「心の性別」ということも。(vol.1 性の多様性に関する基礎知識その1参照)

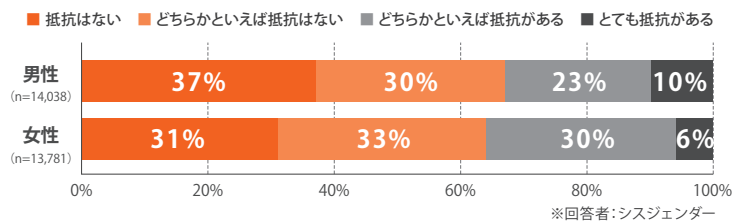
調査データ：オフィストイレのオールジェンダー利用に関する意識調査2017(金沢大学、コマニー、LIXIL)

性自認に沿ったトイレ利用に「抵抗なし」は6割以上!「抵抗あり」は“知らない”ことが原因!?

トランスジェンダーが性自認に沿って職場のトイレを利用することについてどう思うか、シスジェンダーに聞いたところ、「どちらかといえば」を合わせて「抵抗はない」と回答した人は、男女ともに6割以上でした。

一方、「抵抗がある」と回答した人は約3割。その理由は、「なんとなく」、「どうしたらいいかわからない」といった、トランスジェンダーに対する“無関心”や“知識がないこと”に起因するものも目立ちました。

Q. 職場のトイレを、トランスジェンダーの人が性自認(心の性別)に沿って利用することについて、どう思いますか?



VOICE 「抵抗がある」と回答したシスジェンダーの声

なんとなく

どうしたらいいかわからない

トランスジェンダーのことを知らないから

身近にトランスジェンダーがいないのでわからない

意識を変える第一歩、まずはお互いに“知る”ことから

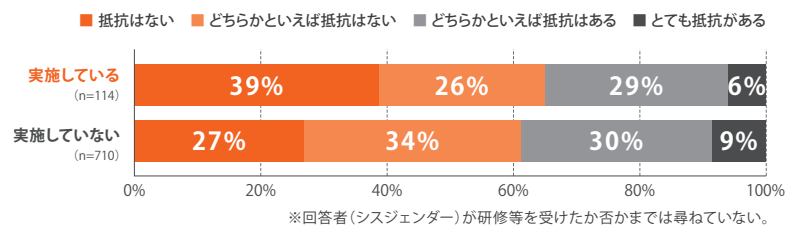
トランスジェンダーの「性自認に沿ったトイレ利用」に「抵抗はない」と回答したシスジェンダーの割合は、所属する職場で「性的マイノリティに関する勉強会や研修」を実施していない場合よりも、**実施している場合の方が高く、その差は10ポイント以上**となりました。

では、勉強会や研修が行われている職場はどのくらいあるのでしょうか? 職場での実施状況を尋ねたところ、「**実施している**」と回答した人は**わずか14%**でした。

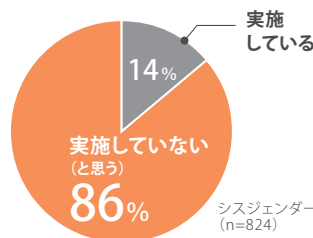
偏見をなくすには、意識を変える必要があります。そのためには、職場や学校での教育を通して「知る」ことが**重要**です。「知る」ことで、相手の立場に立って想像することができ、それが**お互いを尊重**することにつながるのではないのでしょうか?



職場での「勉強会や研修の実施状況」による抵抗感の違い



Q. 「性的マイノリティに関する勉強会や研修」は、職場で実施されていますか?



トランスジェンダーの声

周りの人々の意識が変わってくれたらな、と思います。周囲の目が変わらない限り、似たようなことが続くと感じています。
(MTX40代)

※「声」出典：性的マイノリティに関するWEB調査2015 (LIXIL、虹色ダイバーシティ)

POINT!

トイレへのアクセスは**基本的人権のひとつ**です
教育等により、シスジェンダーの意識を変えることも必要です

変えた方がよい?!

誰もが利用しやすいトイレのサインとは?

男女共用トイレであることをどう表示すれば、誰もが利用しやすくなるのでしょうか?

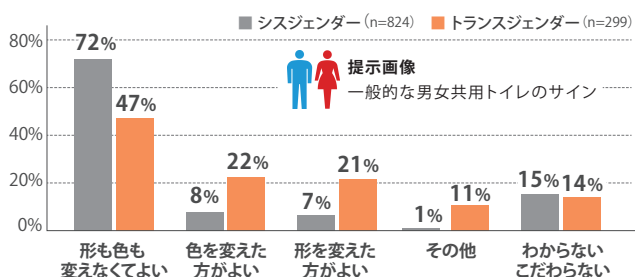
また、トランスジェンダーが多機能トイレを利用しやすくするという目的で、さまざまなマークやサインを貼付するケースも見られますが、果たして本当に利用しやすいのでしょうか?

調査データ: オフィストイレのオールジェンダー利用に関する意識調査2017(金沢大学、コマネー、LIXIL)

男女共用トイレのサイン、シスジェンダー・トランスジェンダー共に「変えなくてよい」が最多

男性が青、女性が赤のトイレピクトを組み合わせたサインについて、「形も色も変えなくてよい」と回答した人は、**シスジェンダーで7割以上、トランスジェンダーも半数近く**となりました。一方、トランスジェンダーでは、「色を変えた方がよい」、「形を変えた方がよい」と回答した人も約2割いました。

Q. 一般的な男女共用サインについて、どう思いますか?



VOICE トランスジェンダーの声

変えなくてよい派

広く浸透していて、わかりやすい

特別なマークは逆に差別を助長する

変えた方がよい派

男女同色など、ジェンダーを感じさせないものがよい

便器などの設備表示だけでよい

TOPICS

男女共用
お手洗のサイン



(公財)交通エコロジー・モビリティ財団が、2018年10月に公開した「男女共用お手洗」の図記号(左図)では、『文字による補助表示を付ける場合は「男女共用 All gender」またはそのどちらかとする。色彩はモノトーンが望ましい』とされています。なおこの図記号は、2020年5月に経済産業省にてJIS規格(日本産業規格)制定されました。

「誰でも利用できること」が明記されていると利用しやすい、多機能トイレのサイン

多機能トイレのサインについて、トランスジェンダーにヒアリングを行いました。さまざまな声があがる中、共通していたのは「**誰でも利用できること**」が明記されていると**利用しやすい**、という声でした。また、LGBTを象徴する6色の虹や、男女半々のサインがあると、かえって利用しにくく、「**特別なもの**」は**不要**という声が多くあがりました。

Q. 6色の虹や、男女半々のサインをどう思いますか?



「LGBT」と一括りにされたくない

「半分」ではないので不快

目立つように付いていると入りにくい

※8名にヒアリング
(FTM・MTF・FTX・MTX各2名)

車椅子やベビーカーを使用している人だけじゃない

TOPICS

さまざまな事情で、多機能トイレを必要としている人がいます!

- case 01
オストメイトなど、**見た目ではわからない障害**がある
- case 02
付添いや介助が必要なため、広いトイレでないと困る
- case 03
異性介助や性別違和など、さまざまな事情で男女別トイレに入りづらい
- case 04
その他、体調不良やケガなどの理由で並ぶのが辛い etc.

必要としている人に対して、**多機能トイレの数が不足している**という実情もあります。また、利用集中の緩和には、**機能分散**や**男女共用広めトイレ**の設置なども有効です。



POINT!

トイレのサインは「**誰もがひとめ見てわかること**」が最も重要
施設の公共性や利用者属性に応じて決めることが大切です